会員だより

近況短信

昭和43年度機械　森　岡　和　美

悠久同窓会会員の皆さまお元気ですか。

阿南工業高等専門学校は、昭和38年4月1日機械工学科2学級、電気工学科1学級で発足し、昨年創立60周年を迎えました。卒業生も9,000人を数えます。60歳と言えば、「還暦」で人生の節目です。過去を振り返り、新たな姿を求めて、未来を見つめ直す機会でもあります。夢を追いかけて、将来にはばたく学び舎であり続けて欲しいものです。1、2、3期生は後期高齢者となりましたが、心機一転、新しい気持ちで今後の人生を実りあるものにしましょう。

令和2年から猛威をふるった新型コロナウイルス感染症の位置付けが、昨年5月8日からインフルエンザ並みの5類感染症扱いになり、沈静化傾向ではありますが、油断はできません。基本的な感染対策は実行したいものです。

世界に目を向けると、令和4年2月24日に始まったロシアのウクライナ軍事侵攻は、現在も続いており、北朝鮮が兵力をロシアの戦線に送り込むといった報道もあり、一向に終息する気配はありません。また、昨年10月7日には、イスラエル・ガザ戦争も勃発し、穏やかな世界からは程遠いようです。早く争いが終息し、平和な日常が戻ることを期待したいと思います。

国内では、10月27日に、衆議院議員選挙が行われ裏金問題に揺れる自由民主党が大幅に議席を減らし、自公連立で過半数を確保できませんでした。与野党はお互いに連立を模索しましたが、政策協議の域をでませんでした。与野党が真摯に、国民の為の政治はどうあるべきか論議して、真剣に国民目線で政策立案、実行に取り組んで欲しいものです。

私は脳梗塞の後遺症で相変らず、週に三日リハビリ通院しています。脳トレも兼ねて、地元新聞の読者投稿欄に応募しています。今年も、例年同様、最近の投稿作品から抜粋し、近況報告とします。

悠久同窓会会員皆さまのご健勝とご多幸をご祈念申し上げますとともに、悠久同窓会の益々のご発展をお祈り致します。

（令和6年10月31日記）

【通信Ⅰ】令和5年11月19日　記

「遊び心」を持とう

「遊び心」というと、「つい遊び心で…」と言うように、少し不真面目なイメージを連想しますが、決してそうではないようで、人生において必要なことのようです。

卑近な例ですが、車のハンドルにも「遊び」があります。これは車を運転しやすくするためです。遊びが無いとハンドルの微妙な動きにタイヤが敏感に反応してしまい、走行が不安定になります。また、道路の凹凸でタイヤが多少揺れても、遊びのおかげでその揺れが直ぐハンドルに伝わることなく、遊びで吸収され、ハンドルが震えないように工夫されています。

人生においても「遊び心」があると次のようなことが考えられます。

① ストレスを軽減し、幸福感を高めることができます。
② 創造性や発想力を刺激し、新しいアイデイアや解決策を見つけることができます。
③ 人間関係を良好にすることができ、遊び心で、コミュニケーションをとることで、信頼や親密さを深めることができます。

新型コロナウイルスの感染禍で、ともすれば円滑な人間関係に差し障りが見られる現在、お互いに「遊び心」を持って生きることは、自分自身や周りの人々にプラスになるのではないでしょうか。

【通信Ⅱ】令和5年12月31日　記

今年の漢字「税」に思う

今年の漢字が「税」に決まった。これは、消費税の引き上げや所得税の減税、また防衛予算の増税が近いうちにあるのではという憶測もあること。また税制改革が経済や社会に大きな影響を与える重要な政策であり、国民の家計を直撃するもので、国民にとっても一大関心事であるといえることによると思われる。国民には納税の義務が課せられています。国民がキチンと収めた税金を、政府や政党が適切に使わないと、国民の信頼は失われます。税は国民と政治の信頼関係において、成り立っているものであります。

年末に発覚した自民党派閥の政治資金パーテイー券にまつわる裏金問題は、政治資金規正法違反だけでなく、税もごまかし、国民の信頼を裏切る卑劣な行為であります。この問題は、政治倫理の低下を示しています。

政治家は、国民の代表として、公正で透明な政治を行うべきです。自分の懐に入れるために、政治資金をごまかし

たり、隠したりするという行為は、政治倫理に反しています。政治家は、自らの行動に責任を持ち、国民に説明することが必要です。すなわち、政治資金パーテイーの収入や支出を、政治資金収支報告書に詳細に記載するとともに、政治資金パーテイーの開催や参加者の情報を、インターネットなどで公開することなどの対策が必要です。国民の信頼なくして政治家はたちゆきません。大いに反省し、肝に銘じるべきです。

【通信Ⅲ】令和６年１月20日　記

真の成人となろう

今年は、１月８日が成人の日だった。私が成人式を迎えた54年前には、１月15日と決まっていた。そして、ラグビーの日本選手権が開催される日でもあった。晴れ着姿の女性ファンがテレビに映っていた記憶がある。

「成人」という文字は、「人と成る」と書く。「成人になる」のは、決められた一定の年齢に達すれば、誰でも同じように成人になれる。但し、成人の本当の意味は、満18歳になったから、20歳になったからなれるという事ではなく、思慮分別のある立派な人間、人間らしい人間になるということだと思う。すなわち、成人式はその意味で、「真の成人となる」門出の日と言える。そのためには、努力して学び、理解し、実践し、成長して「成人となる」ことが求められる。

「成人になる」ことは比較的容易だが、「成人となる」ことは難しいことだ。自分自身、後期高齢者の仲間入りを目前にしても、孔子の言うように「七十にして心の欲する所に従ひて矩（のり）を踰えず（こえず）」の域には到底到達できていない。

「新成人」の皆様の素晴らしい門出を心からお祝いするとともに、「真成人」となる努力を惜しまれず、幸せな成人となられんことをご祈念申し上げます。

【通信Ⅳ】令和６年２月12日　記

フレイル予防　５訓！

フレイルとは、「加齢によって心身が老い衰え、社会とのつながりが減少した状態」をさすのだという。「Frailty（虚弱）」が語源となっており、2014年に日本老年医学会によって提唱されたものである。

落語家で「お笑い福祉士」の創設者としても知られる笑福亭學光さん（阿南市羽ノ浦町出身）は、よく介護施設に落語の慰問に行くそうだ。ある時行った施設に「フレイル予防５訓、一、十、百、千、万」と大書してあったそうだ。その意味は、１日に、「１度は大きな声をだして笑いましょう！」「10人の人に会いましょう！」「百文字書きましょう！」「千文字声を出して読みましょう！」「１万歩あるきましょう！」ということだそうです。新型コロナが猛威をふるった３年間、マスクして大きな声を控え、人ゴミを避け、黙読、黙食で、外出を控えと、フレイルを加速するような生活が続きました。この３年間でフレイルが進行したと言われています。新型コロナも５類分類に移行し、通常生活に戻りつつあります。できる範囲で、５訓の実行を心掛けたいものです。

なお、この５訓の前提条件は、「快食・快眠・快便」とのことですので、念のため申し添えます。

【通信Ⅴ】令和６年４月12日　記

裏金は処分よりも実態解明を

自民党の派閥裏金問題に関し、裏金問題のあった派閥解散、派閥と金・人事との関係遮断宣言等を行ったが、世論の非難は収まらず、衆参議院での政治倫理審査会でも、裏金の本質や実態は何ら解明されていない。

係る状況の中で、今度は裏金問題のあった安倍派、二階派議員の処分で世論の非難をかわそうとしている。実態解明が不十分なままで、処分を決めるという事に違和感も覚えるし、「処分と言っても党内のことでしょ！」と言いたい。

岸田総裁は「私がリーダーシップを取ってやる」といっているが、その方向性に疑問を抱かざるを得ない。国民が知りたいのは、裏金作りがどのようになされて来たか経緯を解明し、今後、そのようなことのないようにきちんと対策を実施し、政治資金規正法の改正も含めて国民にきちんと説明責任を果たすことです。派閥解散や党内処分といった対応に国民の目を向けさせ、問題の本質をすり替えてしまうような姑息な手段ばかりを考え、自浄能力のない政党に日本の政治を牛耳らせてよいのだろうか？これでは政治に対する国民の信頼を失うばかりだ。政治の再生と透明性を期待する国民に応える姿勢を、与野党が国会で示して欲しいものです。

【通信Ⅵ】令和６年５月５日　記

学校再編は教育理念の再構築機会

小中生が少子化の影響で減少している。阿南市「総合計画」によると０歳から14歳までの年少人口は、2020年１月現在約8,400人が、2030年には約6,600人に減少する見込みとなっている。このことを実感するのが、小中学校の休校･廃校だ。阿南市でもこういった状況を鑑み、児童数が少なくなる前に学校の統廃合や再編を計画している。児童生徒数が少なくなると多数が参加する部活動やクラス替えができないなどの弊害が出てきて学習機会の確保上問題が生じるとしている。確かに学校運営の効率化、教職員の効率的配置といった観点からは、やむを得ない面もある。ただし、文部科学省が示す「適正規模・適正配置」に沿う方向で学校の数を減らすことだけを金科玉条としないで欲しいものだ。

阿南市周辺部は自然環境に恵まれ、生物多様性スポットも点在し、文化的、歴史的遺産や史跡・遺跡も多く存在しており、貴重な教育資産の宝庫である。こういった教育資産を活用するといった面からも周辺部の拠点校の存在は必

要である。市街地と周辺部をネットワークで結び、交流を活性化し、人数減・クラス数減をカバーし、学校選択制・小規模特認校などの導入により特色ある学校を目指し、市全体としての教育理念を構築し、学校配置の在り方を多角的に検討して欲しいと思います。再編は教育理念再構築の絶好の機会です。市街地だけが光るのでなく、周辺部も小さくてもキラリと光るものがあって、全体として輝く「光のまち阿南」であって欲しいものです。

【通信Ⅶ】令和６年６月６日　記

教員の労働環境の改善を

「一年の計画は穀物を育てることにあり、十年の計画は木を育てることにあり、終身の計画は人を育てることにあり」と言われます。これは長期的な視点で価値あるものを育てることの大切さを教えている中国の古典「管子」からの引用です。今、この大切な「人を育てる」学校教育の現場が危機的な状況にあると言われています。長時間労働をはじめとする労働環境の悪化や、教員希望者の減少等により、学校教育に支障がでています。教育現場の危機は、国の次代を担う人材育成の危機であり、国家の危機でもあります。

文科省中教審は、教員の働き方改革に関する法案を提出していますが、これはみなし残業手当の支給率のアップや終業から始業までに 11 時間のインターバル時間を確保するといったような内容を柱とするもので、ある程度現状の働き方を是認した上での対応策で、一部の問題に対処するものであり、教員が長時間労働を強いられる根本的な原因には触れられていません。

教員の長時間労働の原因は、業務量の増加と多様化、教育改革への対応、部活動の指導など色々とあると思います。これらの問題に対処するためには、学校や教員任せにすることなく、自治体、国、そして大切な子どもを預けている保護者も協力して改善し、教員にも児童・生徒にも良好な教育環境を構築することが急務です。

【通信Ⅷ】令和６年７月３日　記

良識ある選挙戦を

東京都知事選挙戦の真っただ中である。だが、どうしてこのような良識の無い選挙戦になっているのだろうか？公費で作成したポスター、公費で設置した掲示板、しかし、そこに貼られているポスターのなかには、全裸に近い女性のポスターや女性向け風俗店の PR ポスター、候補者に関係のない多数の同図柄のポスター 24 枚で掲示板ジャックしているものもあるとか。都知事選に立候補する人ならば、常識のある社会的にも信頼のある方であろうと思うが、このような良識のないポスター掲示合戦とは、全く言語道断だ。

東京都選挙管理委員会も「ポスターは寸法の規定がありますが、中身に関する規定はありません」と全く傍観者のような紋切り型回答で、呆れてものが言えない。公費を使って展開される選挙戦、選挙ポスターが公序良俗に反するものであっていいのだろうか？きちんとケジメをつけるべきだ。

良識ある選挙戦を実現するためには、候補者や政治団体が自主的に適切なメッセージを発信し、市民に対して誠実で透明性のある選挙活動が必要だ。選挙は市民の権利の正当な行使の場であり、市民を愚弄するような選挙戦については、公正で健全な環境を維持できるように、毅然とした態度で、候補者や政治団体に選挙ポスターの適切な使用を求めるべきです。

【通信Ⅸ】令和６年８月22日　記

流域治水を学ぶ

このほど那賀川流域住民で組織する「那賀川アフターフォーラム」が結成 20 周年を記念して、「那賀川流域フォーラム」を開催した。那賀川アフターフォーラムはその前身である「那賀川流域フォーラム 2030」が平成16 年に那賀川の 20 ～ 30 年後のあるべき姿や河川整備の方向性を河川管理者に答申した後、フォーラム 2030 メンバー有志により結成された団体で、那賀川の源流を特定し、源流碑・源流モニュメントを建立、流域の交流を促進するとともに、那賀川のより良い、治水・利水・環境を目指した活動をしている。顧問は、湯城豊勝・阿南高専名誉教授にお願いをして、ご指導をいただいている。

今回開催した流域フォーラムでは、国土交通省四国地方整備局の豊口佳之局長より、最近 40 年間で 1 時間に 50mm 以上の非常に激しい雨が降る頻度が 1.5 倍に増えている。また気象変動の影響で更に激化するとのお話があった。

そして従来のダムや堤防だけによる対策だけでは限界があり、流域全体で治水対策を考える「流域治水」が必要とのことで、被害の軽減には流域住民や企業の協力が重要との呼びかけがあり、流域全体での治水対策の必要性を痛感した。

最後に、「流域治水」という新たな絆で、森を守り、水を蓄え、一人ひとりが防災意識を高め、上流と下流、人と人、そして現在から未来へと「つなぐ」ことで、流域全体で力をあわせて、今後も那賀川と共に暮らしていくとするフォーラム宣言を参加者全員で採択し、防災に対する決意を新たにした。

【通信Ⅹ】令和６年９月 14 日　記

天災は忘れずやってくる

「天災は忘れた頃にやってくる」とは、自然災害はその被害を忘れたときに、再び起こるものだという戒めで、科学者で随筆家の寺田寅彦氏による言葉と言われる。

古来９月１日は立春から 210 日目に当たり、台風の襲来が多く、「二百十日」と恐れられ、大正12 年には、関

東大震災に見舞われ、10万人が亡くなっている。昭和24年にもキテイ台風の高潮が東京を襲っている。こういったことから、昭和35年に、9月1日が「防災の日」として制定された。

今年も年初から1月1日の能登半島地震、1月2日の羽田空港における航空機火災事故に端を発し、1月の大雪災害、6～7月の大雨災害、さらに8月8日には宮崎県日向灘地震があり、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が初めて発表され、眠られぬ1週間を過ごしたことは記憶に新しい。8月27日に鹿児島県に上陸した台風10号は、ノロノロと迷走し、九州を横断し四国に再上陸したあと紀伊半島南に抜け、防災の日、9月1日には、東海沖から三重県に上陸し北上、日本海に抜けるというこれまでにないコースをたどっている。また、台風から遠く離れた東北、北海道でも大雨による被害が発生するなど、従来の予報では想定できない動きや影響がでている。

天災は、忘れた頃にやってくるのではなく、毎年、忘れずにやってくるということを念頭において、日頃から備えを十分にしなければならない。

【通信XI】令和6年9月24日　記

党利党略を超えた総裁選を

自民党のポスト岸田の総裁選が12日告示され9人が立候補し、27日の投開票に向けて選挙戦が繰り広げられている。自民党総裁選挙は、国民の誰でもが投票できるわけではないが、自民党総裁が首相にえらばれるのは既成事実であるから、国民のだれもが非常に関係のあるそして関心のある選挙である。

裏金問題から派生した派閥の解消（麻生派を除く）により、派閥から解き放たれた解放感からか多種多様な方が立候補し、混戦模様となっている。

気になるのは、最初の立候補表明の時は、政治と裏金問題、政治資金規正法の改正、自民党改革など、国民の関心事には、かなり突っ込んだ発言をしていた候補者も、選挙戦が進むにつれて段々トーンダウンして曖昧な表現が目立つようになってきたことだ。裏金にしても政治資金報告書の不記載分を国庫に納付すれば、それで良しとし、閣僚への登用もやぶさかではないと言う候補者まで現れている。これは総裁選が1回目の投票で過半数を取れず、上位2人による決戦投票になった場合を想定して、できるだけ党内から幅広く得票しようとする選挙行動だ。自民党の党利党略を念頭においた総裁選では国民の信を得ることは難しい。真に国民、国家のためにどうしたいかということを、相互に論戦を戦わせて、明日の日本の行方を担うに相応しい総裁を選んで欲しいものです。

【通信XII】令和6年10月21日　記

自分の心に従い一票を行使

自民党総裁に就任した石破茂氏が、「国民に信を問う」、として1日の首相就任から8日後の9日衆議院解散した。これは戦後最短の解散であり、15日公示、27日投票と衆議院選挙日程を決定した。

「国民に信を問う」とは、国民に信任するかどうかを尋ねることで、すなわち総選挙を行い、国民に自民党が政権を担当するに相応しいかどうか、信頼や信用を得て、政権をまかせてもらえるかどうかを諮ることです。性急な解散で、与野党の国会論戦も少なく、政権担当判断材料も釈然としないなかでは、国民は各党の公約や選挙演説を通じて判断することになります。是非、国民の前で信を得られるのに相応しいかどうかの丁々発止の議論をして欲しいものです。

そして国民が知りたい、裏金の真、政治改革の真、政治資金規正法改正の真等々について、国民の「信が得られる真」を示して欲しいものです。それが国民の「心（しん）」です。

何が真実で、何が信に値するのか、石破首相の言う、納得して共感できる政策か、この選挙戦を通じて、しっかり確かめ、自分の心にしたがって、一票を行使したいものだ。

よろず伝言板

「同窓生の声」募集

本校も独立行政法人となり、現在、様々な対策を取って教職員一丸となっております。しかし、教職員の知恵だけでは不十分な点もあろうかと存じます。本校発展のために同窓生の皆様のお知恵も拝借することができましたらこれほどありがたいことはありません。『悠久』や本校のホームページ等をご覧になってお気づきの点がありましたら何なりと左記連絡先までご連絡いただけましたら幸いです。高い見地からの皆様のご意見をぜひお寄せください。同窓生の皆様のご協力をお願い申し上げます。

【連絡先】　阿南高専学生課
阿南市見能林町青木265
ＴＥＬ 0884-23-7132
ＦＡＸ 0884-22-4232
MAIL dosokai@anan-nct.ac.jp

赤い手帖（34）

昭和45年度電気　森　田　虔　児

小学生の孫達の夏休みが終わる頃に、サッカーJ1リーグの横浜Fマリノスのホームゲームが、2019年竣工の国立競技場で開催されたので、同居家族6人で観戦に出掛けた。試合結果は、4対ゼロの完封勝ちであった。その日は、後楽園のドームホテルに泊まり、翌日の昼間は東京ドームシティでたっぷり遊んだ。帰宅すると、町内会の回覧板が届いていた。その主な内容は、「秋祭りの資金カンパ」と「敬老祝賀会について」のふたつであった。

「藤沢・八王子道」とも呼ばれる旧鎌倉道沿いにある、鯖神社の氏子をコアとした我が町内会は、600世帯余りの比較的歴史の古い集落である。新田義貞が鎌倉責めの際に通ったと謂われる界隈でもある。横浜・山下町のシルクセンターに所縁のある明治時代の製糸場跡の遺構や、平安時代の頃から存在するらしい第六天神社などが、今も町内に残っている。すでに終わった「夏祭り」は盆踊りが主体であったが、「秋祭り」のメインイベントは神輿渡御である。一方、「敬老祝賀会」に関する回覧板の周知事項は、「祝賀会自体を今年度から取りやめる」という趣旨であった。その理由は、町内の後期高齢者の人数が200人を超えてしまった為との事である。「少子高齢化」が町内会でも顕著になった結果、行事として支えきれないという訳である。そう言えば、ひと昔前に、内閣府や地方自治体等から「百歳高齢者」に対する記念品として、純正の「金杯・銀杯」を授与する催しが、途中からメッキ品の贈呈に変わったという話を思い出した。「古希」という言葉も、最早死語となりつつあるようだ。

このところ、小生が家で留守番をする機会が増えたが、郵便や夕刊配達が来た事に気付かないことが多い。どうやら、その理由は最近の配達員が電動バイクに乗り換えた点にあるようだ。時代のささやかな変遷を、こういう場面でも感じ取る昨今である。かく言う自分も、家内にあてがわれた子機ではあるが、所謂ガラケーを止めて、ときの流れでスマホを持つようになった。最近そのスマホに、息子が「NHKプラス」の設定をして呉れたので、先日何気なく「見直し配信」の操作をしていたら、サッカーの日本代表であった前園真聖が徳島県内で自転車旅をする番組が出てきた。丁度、阿波踊りを地元民に教わる場面であったが、その前園にマンツーマンで阿波踊りを教えていたのが、何と中学生時代の小生の同級生であった。彼は、「婿養子」として別姓になっているのが画面の字幕に表示されており、生まれ故郷とは少し離れた地区で、阿波踊り連のリーダーとして活躍して居る様子が分かり、何やら頼もしかった。

田舎の中学校は、廃校となってすでに半世紀以上経っているが、コロナ禍を挟んで五年振りに、町営の住民福祉センターという場所で同窓会が開催されるというので、今年の正月3日に参加した際に、その阿波踊り連の彼も見かけていたのである。中学校の同窓会には毎回、卒業時の人数の3割ほどが出席しているが、これも偏に、地元に残留している6名の幹事団の貢献度が大である。また、幹事達のうちの男女それぞれ1名が、昨年秋の旭日単光章と端宝双光章の対象者であったことが席上で紹介された。各人が社会に貢献している日常を識ると共に、我々全員がすでに、かかる「叙勲世代」に達しているのだと改めて実感した。

件の同窓会は昼時の開催であり、遠隔地から参加した小生は徳島市内での前泊を余儀なくされたのであるが、この機会を活用して、同窓会前日の正月2日の早朝便で羽田空港を立ち、徳島空港からのレンタカーで、高知との県境に近い、別格本山4番札所の八坂寺（鯖大師本坊）で納経を済ませる事を思い立った。即ち、県内の別格本山6寺を、今回の帰省ですべて巡り終えることを目指した訳である。この判断が功を奏し、当日（1月2日）の夕方に発生した、羽田空港到着機と自衛隊機との衝突・炎上事故による羽田空港の滑走路閉鎖（出発便の欠航）との遭遇を偶然に回避できた。もし、2日の夕方便での帰省を計画していたら、1月3日開催の同窓会には、当然間に合わなかった筈である。

その同窓会当日の朝は、徳島駅前のホテルを出て、山間部の同窓会場まで、出費は嵩むが、タクシーで直行することにした。5年前の帰省の折には、徳島駅前を出てから、「日赤病院」というバスターミナルで別のバス路線に乗り継げば、何とか昼前に開催地の「町役場」付近に到着できるダイヤが有ったが、最近はバス便利用者の減少により、午前中や昼過ぎに山間部に着く便が皆無だと知ったためである。

偶々その時乗ったタクシーでは、助手席のヘッドレストに輪袈裟が掛けてあったので、小生よりやや高齢と思しき運転手に尋ねると、「高野山友の会」の会員で、お四国参りを複数回経験しており、高野山にも5回ほど参詣したと話していた。

同窓会がお開きになる頃、徳島市内に移住した元クラス

メイトの奥さんの車が迎えに来たらしく、一緒に乗って行こうと誘われたので、同乗して徳島駅付近まで迂回をして送って貰った。お陰で、空港行きの早めのリムジンバスに乗れた。ところが前日の羽田空港での滑走路上の衝突事故の余波で、羽田から徳島空港への到着便が、相次いで大幅遅延となり、結局小生の予約した便は、機材が到着できず、欠航となった。航空会社の空港責任者からは、「欠航に伴う出費について、領収書が明確であれば代替ルートの費用を全額補償する」旨の説明を得た。そこで、まず前泊したホテルに電話で予約を入れ、最終の空港リムジンバスで徳島駅前に戻る事にした。但し、翌日も航空ダイヤの回復が遅延する事と、前日の積み残しの乗客の混乱が収束しないことを見込み、小生は新幹線等の陸路で帰宅する決断をした。

翌１月４日は、早朝の高速バスで徳島駅前から大坂方面に向かったが、今回の旅では初めから納経帳を携えていたので、新幹線に乗る前に、難波駅経由で高野山を訪ねることにした。目的とする金剛峯寺は、予想にたがわず遠隔地に在り、結構慌しかったが、何とか納経を済ませることができた。

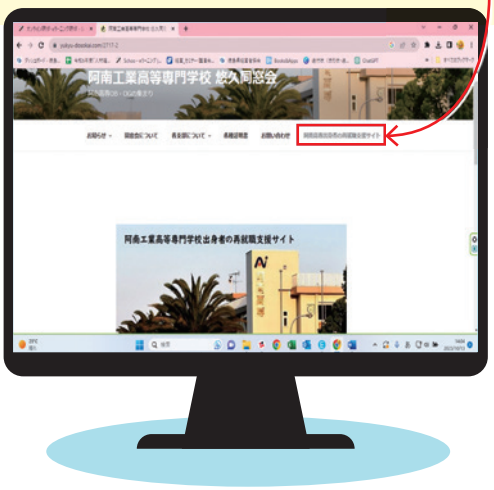
再びサッカーの話題に戻るが、贔屓のチームである横浜Ｆマリノスが、ACL（サッカーのアジアチャンピオンズリーグ）決勝まで勝ち進んだので、５月中旬のホームゲームに家族で新横浜のスタジアムに応援に出掛けた。相手チームは中東のアルアインで、何とかその第一戦には勝利できた。５月下旬にあった、決勝第二戦（アウェイゲーム）には、この３月末に定年退職し、時間的に余裕の出来た家内が、一人で UAE のドバイまで応援に行った。

７月末には、小学生（１年・３年）の孫ふたりを含む家族６人で、家内の定年退職記念の名目で、５年振りのハワイ旅行が実現した。直前には、息子に急なオーストラリア出張予定が発生し、その帰国時期の心配もしたが、なんとか日程の重複を避けることができた。事前の ESTA（電子渡航認証システム）に関しては、昨年カリフォルニアの知人の農場を訪ねた事のある息子が慣れており、小生の分を対応して呉れた。今回は、シェラトン・ワイキキビーチリゾートホテルを拠点に過ごしたので、孫達が海辺で遊んでいる間に、小生はハワイアン等の生演奏を聴きながらインフィニティプールでも過ごした。またホテルのラウンジが高層階にあったので、ワイキキビーチ全体からダイヤモンドヘッドまでが見通せる絶景を味わう事ができた。最終日には、別のホテルのレストランでのディナーとナイトショーに出掛け、エルビス・プレスリーとマイケル・ジャ

よろず伝言板

悠久同窓会HP
県内企業就職支援サイトについてご案内

悠久同窓会 HP では、徳島県経営者協会と連携し、県内企業に就職を希望する同窓生のための就職支援サイトを開設しました。



紹介までの流れ

サイト内フォームからエントリー ｜ 卒業年度やコースなどを登録

高専の就職担当教員から、希望者へ企業を紹介

詳しくはHPをご確認ください。

また同サイトでは、同窓生を積極的に採用したい企業 HP へのリンク（徳島県経営者協会管理）が出ております。是非一度サイトをご覧になってみてください。

ホームページへ GO!

クソンの「そっくりさん」の歌が中心のステージを観た。ビールなどをやや飲み過ぎた小生は、終演が待ちきれずに、暗い客席を抜けて、壁脇の長い階段を下りて、地下のホールでトイレを探していたら、どうやら楽屋の傍だったらしく、出番の終わったばかりのエルビス役の大柄の歌手に鉢合い、トイレの場所を教えてもらった。幼かった５年前と異なり、孫達にとって今回は鮮明な記憶に残るハワイの旅となったようである。なお家内の方は、法人本部が新しく役職を創って部屋を設けて呉れたらしく、定年後も毎週の数日だけ、相変わらず出勤を続けている。

話は変わるが、二年ほど前の暇な時に、自社の持株会で保有していた最後の 1000 株を売却した。最近の物価上昇もあるとは言え、在職時の購入額の３倍くらいで売却出来、ほぼ満足していたのである。ところが、今年の株価推移を見ていると、ある短期間で急激に、１株あたり１万円以上の値上がりをしていた。もし、そのまま保有していたら、今年の売却では、更にプラス 1000 万円以上の利益を得ていた筈で、売却時の税金・手数料を差し引いても、ちょっとした資産形成に繋がった訳である。勿論、株価の乱高下は常に想定されるため、左程に残念という切実感はなかったが、我が人生にも、居ながらにして、文字通り一獲千金の機会が現実に訪れるのだなあ、と感心したものである。

今年届いた「悠久」56 号の投稿者に、同期生の山田喜吉君の名前を見た。小生が「悠久」36 号で、寮生のクレプトマニア（盗癖症）事件について書いたが、その摘発に貢献した熱血漢の「Y 君」としたのが、正に、この山田君のことである。学生時代後半の彼の詳しい消息には不知であったが、改めて豊富なご苦労を理解した。例えば、関東支部管内の４期生（中退者）である医院や老人施設等を経営する、医師の西本研一君のように、毎年の同窓会にほぼ毎回出席している現実もあり、私見であるが、悠久の「準会員」資格者の同窓会名簿上の登録を可能にしても良い気がしている。その条件としては、「３年次まで在籍し、同窓会誌発行協力金を継続的に納付している」というような類であろうか。「準会員」の新設により、半世紀以上の歴史を重ねてきた OB の多士済々の交流で、同窓会活動「百年構想」の一層の充実が図れる期待が持てるのではないだろうか。同窓会名簿上の便宜上のグルーピング・フラグとしては、「昭和○○年度入学」で良いかと思う。なお、今回の第 56 号の山田君の表記に関しては、「昭和 41 年度入学」が正しいかと存ずる。

小生はこれまでの半生で一度だけ、名前に「先生」と敬称を付けた対応をされたことがある。一歳違いの兄が居たため、小中学生の頃の教科書はお下がりを使っており、自分専用の国語辞典や英和辞典も、勿論持っていなかった。高専入学後に寮生活となり、さすがに自分用の英語の辞書が必要になったので、入学後の最初の講義で宮岡常夫先生から紹介された、８万 7000 語収録の英和辞典を購入したのであるが、暫く経って、その英和辞典で「Avoid（避ける）」とすべき見出しが「Aviod」となっている誤植に気付いた。教官室に宮岡先生を訪ねて報告すると、「珍しいケースだから、出版社に一応連絡して見たら」と助言を頂戴した。そこで、個人名で母校の住所から葉書を送ったところ、早速「阿南高専　英語科○○先生　宛」と、小生の名前の下に敬称のついた郵便物が届いた次第である。出版社の返信に依ると、「次期改訂版にて修正予定です」というような内容であった。

今更宮岡先生を思い出したきっかけは、昨年末に死去した、脚本家の山田太一に関する三谷幸喜の新聞紙上の追悼文の一節である。三谷氏独特の謙遜も有ろうかと思うが、「脚本家としての自分は、偉大なる先輩である市川森一や山田太一などの足許にも及ばない」・「しかし唯一、自分が彼らに勝っていると自慢できるのは、名前の文字の左右対称性の完成度においてである」という件があった。ある日の講義中に宮岡先生が、ご自分のフルネームを漢字で板書され、宮岡常夫という字画は、完全なシンメトリーで非常に良いと易者に褒められたという話をされた事があったのである。なお、この伝で行けば、前述した山田喜吉君も人後に落ちない筈である。

宮岡先生が、ラグビー部顧問として活動されたのは、母校の万人の知るところであろうが、英国バラ協会の招きで渡欧されたり、文化祭のステージで、奥様と見事な詩吟を朗じるなど、ご趣味は多彩のようであった。時には、ご兄弟がＫ鉄鋼に勤めておられるというような、私的な事柄を講義の合間に話される事もあった。また、表現された言葉でそのままで書くと、今の時代では憚られるような、「英文読解も、腰を抱くことが肝心」とか、「この世で、登山ほど無意味なことはない」というような趣旨の印象的なお話をされることもあった。授業では、英文原書の副読本を採用されることもあったが、我々の卒業間近の時分には、テキスト無しで「SALT（戦略兵器制限交渉）」・「ICBM」・「ABM」などの時事英語を、集中的に課題として取り上げる講義もあった。なお、旧制徳島高女の流れを汲む謂山会にお名前のある「宮岡先生」が、小生らの知る宮岡常夫先生と若しも同一人物であるならば、我々の存じ得ない、宮岡先生の別のお貌もあるのではないかと想像する。

たそがれびとの子守唄⑤

昭和45年度機械
久　米　恵　二

①「悠久同窓会ゴルフ大会」

11月2日に鳴門カントリーで行われた。大雨の予報だったので、幹事の森君や松尾君は気をもんだことだろう。前半は小雨程度でなんとかプレーできたが、後半はまず無理だろうということで中止になった。ケイタイで雨雲の情報が入ってくるので便利になったものだ。奇しくも去年の大会は雪と寒波で後半が中止になったことを思い出す。

前回は1期生の高橋さん、林さん、藤倉さんとまわったが、今回は藤倉さんが欠席されたため、7期生の安平君が入った。安平君は落研以来のつき合いで50年以上になるが、ゴルフで一緒にまわるのは20年ぶりくらいと思う。彼は体格もよく、ドライバーの飛距離は抜群だが、あがってみれば、あまりかわらなかった。

②「野球の話」

ドジャースに移籍した大谷選手の話題ばかりで、日本のプロ野球の記事が小さくなったように思う。パ・リーグはソフトバンクが強すぎたし、セ・リーグは9月まで混戦だったものの、日本シリーズはセ・リーグ3位のDeNAが優勝したり、阪神の岡田監督が後味の悪い辞め方をしたためか、どうしても大リーグの方に人気が移ってしまった感じがする。

大谷ばかりが取り上げられたが、今永昇太選手の活躍も見逃せない。とくに男前でもなく、豪速球を投げるわけでもないのに15勝もあげた。一球一球ていねいに投げた結果が大リーグでの素晴らしい成績になったのだろう。

③「ひ孫の大運動会」

母の七回忌の法事をした。一般の親戚は呼ばず、子、孫、ひ孫だけを招集した。私は4人兄弟で、それぞれに子、孫がおり全部で40人余りが集まった。

墓参り、ホテルでの食事、そのあと再び全員が我が家に集まった。我が家は築90年の典型的な農家の造りなので、戸を外せば20畳以上の大広間となる。ひ孫たちは、ほとんどが初対面であるが、すぐ友達のようになり、まるで運動会のように走りまくり、大いに盛り上がった。

父が亡くなってからは親戚の法事には私が行くようになったが、家を出るとき母が、「向こうについたら、こう挨拶しなさい」とよく言われたものだ。60にもなっていたが、母にすればまだまだ子供だと思っていたのだろう。

④「訃　報」

この春に三谷先生が亡くなられたと、悠久会長の横手君から連絡があった。

落研顧問として活躍されてきたが、まだ81才なので少し早い気がした。先生が大学を出て高専の先生になったのと、私が高専に入学したのが同じ年（昭和41年4月）だったので馴染みがあった。その上に落研の世話をしていてくれた関係もあり、50年以上にわたっておつき合いしていただいた。

一番の思い出は、私の結婚式のとき恩師としてのスピーチをしていただいたことだ。先生のことだから、出席者の受けを狙って、おもしろいことを言ってくれることを期待したが、定型文のような「新郎は成績優秀で…」で始まったので、私の方が赤面したことを思い出す。

なお、この結婚式の司会は電気2期生の中津さん、友人代表スピーチは4期生の泉君がしてくれた。みんな落研のOBで和気アイアイの雰囲気だった。

⑤「ゼンリツ腺肥大」

とうとう泌尿器科病院へ行った。数年前から尿のキレが悪く、尿意を感じたとたんチビるようになっていた。家でいるときはトイレですぐズボンを降ろせるから問題はないのだが、ゴルフや外出先ではズボンを降ろすわけにはいかない場合が多い。特に冬はパッチをはくので「愚息」を取り出すのに時間がかかる。そしてモタモタしているうちにオシッコが漏れてくるのである。

蔵本駅前にある有名な泌尿器科専門病院に行った。有名なというのは高度な医療技術をもっているという意味ではなく、院長（私よりだいぶ上の男性）の人格というか、性格があまりにもさっぱりしているという意味だ。「おまはん位の歳になるとゼンリツ腺肥大はしゃあないわな！」など周囲の人に聞こえるような大声で話す。

名医かどうかはともかく、知り合いもたくさんこの病院にかかっており、家も近いので、しばらく診てもらおうと思っている。